



平成20年度は、八幡平市総合計画・前期基本計画の中間点です。市が誕生して3年目を迎え、さまざまな面で落ち着きを感じられ、本格的なまちづくりのスタートではないかと思っております。しかし、国の財政事情は依然として厳しく、地方はこの影響を受けやすい立場にあります。私は、このような時こそ市民の英知を結集して対処しなければなりません。私は、このような時こそ市民、企業、企業の皆さんと、機会を通じて意見交換・連携をしながら「みのり農とひかり輝の大地」八幡平市のまちづくりを積極的に進めます。以下、主な施策の概要を申し上げます。

施政方針演述

新年度の まちづくりへ 決意を示す

平成20年八幡平市議会第1回定例会

自然と共生する、快適な住環境のまちづくり

自然エネルギー 身近な河

川の落差を利用したハイドロパワー計画に基づく水力発電調査により、明治百年記念公園内の新後藤川幹線用水路への小水力発電所建設の基本設計を実施します。教育・学習の場として提供することにも、観光客へ自然エネルギーの大切さをPRするなど、「豊かな

な自然エネルギー供給のまち八幡平市」を全国へ発信します。八幡平御在所温泉地域の地熱開発促進調査を継続し、発電事業化の検討を行います。

国道282号西根バイパス

19年12月に第1期工区4.2kmが開通しました。県では、引き続き第2期工区の一部の路線測量を終え、20年度は残り3.7



の路線測量および全線4.7^キの詳細設計を行う計画です。
事業推進を図るため、19年度に設立したバイパス整備促進協議会が母体となり、事業主体の県と協議を進めるなど、早期の全線開通の実現を要望します。

市道 継続事業の「市道岩手山1号線」、「市道間館線」、「市道平の沢線」などの路線について事業完了を目指し実施します。新規事業では、「市道間羽松線」の改良舗装工事、「市道中田・野駄森線」などの概略設計を行います。その他については、生活道路として緊急度や利用状況を踏まえながら軽舗装工事を実施します。

スマートインターチェンジ

観光振興、冬場の交通管理、地域医療および滞在者の安全確保などに加え、北東北の交流拠点として位置づけできるよう八幡平スマートインターチェンジ協議会（仮称）を設置し、実現に向けて検討します。

除雪 冬期間の交通、市民生活の機能を確保するため、各地区の実情に応じた除雪体制の中で県道の権限移譲道路も含め約684^キを除雪しています。

業務の検証を効率的に行うため、適正な除雪計画を策定し、年次計画で除雪機械の導入を図り、市民の交通・生活機能の確保に努めます。

災害復旧 19年9月の豪雨で被害を受けた市道・河川の災害復旧は、国の予算配分を受け、年度内の完了を目指し実施します。

水道事業 水を安定的に供給するため、施設の適正管理、配水管拡張事業、老朽管更新事業を実施し、道路改良工事や下水道工事に伴う布設替工事にも取り組みます。経営面では、水道への加入促進を図るとともに、水道料金体系の見直し検討を行い、水道事業経営の健全化に努めます。

公共下水道事業

西根バイ

パス第1期工区の開通で迂回路が確保されたことから、大更市街地の国道の未整備区間の管渠整備を行うほか、平舘市街地の整備にも引き続き取り組みます。各家庭の水洗化が進んできたことから、2カ年事業で西根浄化センターの水処理施設の増設工事に着手します。安代処理区は、14年度から事業を進めてきた管渠整備も終えたことから、今後は各家庭の水洗化の促進に努めます。

農業集落排水事業 6カ年の継続事業として、「田頭・平笠地区」、「北寄木地区」の管路整備に引き続き取り組むとともに、田頭・平笠地区の処理施設建設に向けて環境整備を図ります。

既に整備された7処理施設および集合浄化槽の4施設について、水洗化の促進に努めるとともに、河川や用排水路などの水質保全を図るため、適切な維持管理に努めます。

「野駄地区」の処理施設は、供用開始から13年が経過し、今後とも良好な施設機能の確保を図る必要があることから、処理施設の調査診断業務を実施します。

浄化槽事業 公共下水道と農業集落排水区域を除いた区

域を、市が設置して管理を行う方式の浄化槽市町村整備推進事業で取り組みます。

市営住宅 配水管の敷設と浄化槽の設置が完了した曲田住宅について、本年度は水洗化工事を行います。

市営住宅火災報知器設置と柏台第二コミュニティ住宅の外部改修を行い、居住環境の向上と改善を図ります。

耐震診断 一般木造住宅の地震に対する安全性の確保と向上を図るため、10戸の耐震診断を行います。

総合交通対策事業 地域における高齢者などの移動手段を確保するため、安代地区コミュニティバスの試験運行を4月1日から開始します。西根・松尾地区の導入検討を開始するとともに、鉄道や路線バス、タクシーなど市における地域公共交通の在り方についても、市公共交通会議で協議し、地域公共交通計画を策定します。

子育て期の家庭の経済的負担軽減を図るため、公共の交通機関を利用した高等学校などへ通学する生徒の通学定期購入費の一部助成についても、引き続き助成します。

情報化事業 電子自治体の実現を目指すため、19年度は



市情報化計画を策定しました。20年度から5年間の計画で、ブロードバンド環境の整備、携帯電話へのメール配信、郵便局・コンビニエンスストア決済システム、行政文書・会計電子決済システムなど市民サービスの向上を図るため、実現に向けた検討を進めます。

都市計画 西根都市計画道路大更駅前線の計画変更について、関係機関などとの協議を踏まえ、都市計画変更の手続きを行います。大更地区の活性化を図るため、大更地区まちづくり計画の策定に取り組みます。都市計画区域の見直しと、都市計画マスタープランの策定に着手します。

土地利用 国土利用計画八

幡平市計画について、上位計画の岩手県計画が20年度に策定予定であることから、21年度策定を目標に取り組みます。

環境保全対策 環境への負

荷の少ないまちづくりを進め、市民の健康で安全かつ快適な生活の確保を目指し、環境基本計画の策定を進めます。

塵芥処理対策 ごみの減量

化と資源ごみのリサイクルの推進を図るとともに、最終処分場の建設整備を進めます。

清掃センターなどの管理運営は民間事業者を一般公募し、20年度中に一部委託します。

交通安全対策 全国的に交

通事故は減少傾向にあります。が、市内では横ばい状態です。特に高齢者への対策を重点に推進します。

地域安全対策 犯罪の被害

にあわないよう、地域ぐるみでの地域安全対策の取り組みを重点に推進します。

消防・防災対策 昨年の大

雨による大災害を踏まえ、地域防災の要となる消防団の組織体制について検討します。災害時における関係機関・団体との連携強化を推進します。八幡平消防署松尾出張所の高規格救急車など、消防施設の拡充に努めます。

自然と共生する、快適な住環境のまちづくり

水田農業 水田経営所得安

定対策、米政策改革、農地・水・環境保全向上対策を推進し、生産者や集落営農組織の所得向上を図ります。農業振興支援センターを中心に集落営農の組織化も促進しつつ、取り組みます。転作田の有効利用として20年度は、新規に40ha規模の飼料用米の生産に取り組みます。

園芸振興 産地づくり交付

金を活用し、ホウレンソウやキャベツ、アスパラガスなどの面積拡大や生産振興を図ります。販売価格が低迷しているホウレンソウは、新規に価格補てん対策事業を行います。

新規就農者対策 農業委員



会や関係機関などと協力して、市内の遊休農地の状況を詳細に把握するなど、その対応策を検討します。

花き 外国へのリンドウ輸

出に本格的に取り組むため、開発品種の維持・保存、苗の増殖技術向上に加え、人材育成の支援に努めます。

畜産振興 低コスト牛舎の

支援や、超音波診断装置を導入し受胎率向上に努めます。市内の自給飼料の向上を推進するため、西根地区の鞍掛山を中心に農用地利用調査を行い、畜産振興を推進します。

林業振興 民有林整備への

支援を行うとともに、特用林産物の振興、適正な森林管理を推進しま

進します。

農業用施設の災害復旧

水田への取水時期までに影響がないように取り組みます。

農村整備 松川土地改良区

が行う基幹水利施設ストックマネジメント事業について、財政的に支援します。年度途中で中止となった特定中山間保全整備事業について、再度の可能性を模索します。県営事業では、浅沢地区中山間地域総合整備事業、一般農道整備事業赤坂田地区、森林管理道欠の山線開設事業を継続実施。治山事業では新規に小屋の畑と蟹沢地区事業を予定します。

商工観光 「岩手山・八幡

平・安比高原の恵みに満ちた交流新拠点をめざして」をスローガンに、将来像実現のため取り組みます。

工業振興 新たな企業の誘

致、既存企業のフオーアツプおよび起業家支援など、設備投資を誘導し、雇用の創出に向けて取り組みます。

商業振興 市商工会が実施

する経営改善事業、振興対策事業などに対し補助金を交付するとともに、引き続き商工団体が行う商店街活性化事業に支援を行います。中小企業振興資金融資制度の融資枠を



7億円に拡大し、中小企業者への融資限度額を2千万円に引き上げ、中小企業の振興育成を積極的に支援します。

観光振興 八幡平市の知名

度を向上させ、観光客の誘客を図ります。地域の特性を生かした交流人口の拡大を目指すとともに、市観光協会と連携しながら各種イベントの開催などを通じて観光客の増加に努めます。

第三セクター 4社合併を

行い、スケールメリットを生かしながら新事業として漆器事業へ参入します。

営業力強化により、地域の産業振興への寄与と経営改善を図ります。事業の必要性、今後の見通しなどについて検討するとともに、積極的に情報公開を行います。

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

乳幼児医療費助成 市独自の無料化の対象を就学前の幼児まで拡大し、子育て支援を充実します。



妊婦健康診査の公費負担 現行の受診券2枚発行から、妊娠週数に応じて受診券の発行を5枚まで拡大します。

妊婦、新生児の訪問指導 育児や妊娠中の不安の解消を図るため、助産師による訪問指導を継続します。保健師の訪問を全乳児対象に実施し、子育てについての不安などの解消に努めます。

特定健診・特定保健指導 20年度から健診制度が見直され、メタボリックシンドロームに着眼し、初期の生活習慣

病患者に保健指導を行い、医療費の抑制に努めます。

後期高齢者医療制度 岩手県後期高齢者医療広域連合に対して、療養給付費および事務費を負担します。

障害福祉 相談支援事業の強化や地域活動支援センターの設置、作業所の新体系移行への支援や市内で利用できる福祉サービス事業所の指定などを行い、障害のある人が安心して暮らしていける社会の実現に努めます。

高齢者福祉 高齢者が住み慣れた地域で安心して、生き生きと暮らすことができるよう、市老人保健福祉計画を見直します。地域包括支援センター業務の充実に努め、高齢者の健康教室など、引き続き健康増進に取り組みます。

役割意識や生きがいを喪失しない地域社会で頑張る意欲のある人を支援するため、市シルバー人材センターの法人化に取り組みます。

西根病院の運営 県医療関係機関、岩手医科大学に医師の派遣要請を行います。公立病院改革ガイドラインに基づき、関係機関、有識者などの病

院のあり方検討委員会と公立病院改革を検討します。

学校教育 「心豊かで想像力あふれる人づくり」を目指し、豊かな人間性と創造力に富み、社会の変化に主体的に対応し、未来を切り開く心身とも健全な児童生徒の育成が図られるよう努めます。

学校施設整備関係 耐震一次診断結果から、寄木小学校の耐震化工事などを進めます。老朽化が著しい田山小学校屋内運動場改修に向けた耐震二次診断などを実施します。

漏水が著しい田山小学校プールの改修工事、松尾中学校の暖房設備の更新、市内小学校へのAED(自動体外除細動器)設置など、教育施設環境の整備を図ります。



学校給食 西根地区学校給食センターと松尾地区学校給食センターを統合し、より安全でおいしい給食の供給と給食センターの効率的な運営に努めます。

生涯学習 生涯学習推進大会や出前講座などの開催を通じて、自らが学ぶ生涯学習の普及、奨励に努めます。

スポーツ振興 市体育協会と連携を図りながら、参加型スポーツ大会や教室を開催し、誰もが親しみ参加できる生涯スポーツの推進と普及に努めます。

大更地区コミュニティセンター 21年度完成に向け、建設工事に着手します。現在の大更公民館の耐震診断を行い、活用の方角性について検討します。

19年度に計画した、松尾地区体育館大規模改修は、耐震診断の結果、大規模な補強が必要ことから、大規模改修を見直し、松尾地区体育館と松尾地区公民館を含めたコミュニティ施設の建設について検討します。

行財政の効率化 18年度策定の行財政改革実施計画は、21年度までの4年間を行動計画の期間としています。20年度の取

り組みは、安代コミュニティバスの試験運行、柏台出張所の見直しに伴う柏台郵便局での証明書発行業務の試行、西根・松尾地区学校給食センターの統合による業務がスタート、事務事業評価システムの試行など、実情に即し、見直しも含め引き続き着実な実行および進捗管理を行います。

協働のまちづくり補助事業 市民と行政が一体となって築く協働社会実現のため、旧小学校または旧村を単位に設立した12の地域振興協議会と自治会などの地域自治組織が、それぞれの創意工夫により地域課題の解決や地域振興に向けて取り組む活動に対し、協働のまちづくり補助金制度により引き続き支援します。

八幡平市予算説明書 20年度予算の使いみちや、市が行う事業を市民に分かりやすく説明するため、市予算説明書を作成し、市内全世帯に配布します。

新庁舎建設 20年度は、基本構想を踏まえ、さらに具体的な計画である八幡平市庁舎建設基本計画の策定に取り組めます。八幡平市庁舎建設検討委員会の委員から引き続きさまざまな立場、角度からご意見を伺います。